

2023国際教養科 NEWS 3月

2年国際教養科、片桐菜々美さん、3年国際教養科、飯島健介君の2名が、1回目の挑戦で、見事に英検1級合格を勝ち取りました！！ 2年で準1級も8名合格。歴史を塗り替える快挙！



かつて、2019年に3年国際教養科生徒1名、2021年に3年国際教養科生徒1名が、複数回の挑戦の後、英検1級を取得して以来です。語彙や読解問題の難解さ、リスニングテストが、準1級のレベルを3ひねりぐらい加えた難度があり、2次試験にたどり着くまでに、最低1回の不合格を経て、合格を勝ち得ました。今回の2名が、1回目の挑戦で合格を得たことは、歴史を塗り替えたと言っても、過言ではありません。

英語検定1級は英語プロの登竜門ともいわれるほどの難度の高い検定であり、高校生がこの一番高い級に受かることは、快挙中の快挙と言えます。実際、英語の教員でも、この級まで取得している数は、かなり限られています。英検協会による合格率の公表は、最近はありませんが、一般的に10%以下と言われています。

英検1級がどのくらい高いレベルにあることの証左として、大学入試では、一橋大学の全学部の入試における優遇措置が取られています。しかしながら、他の難関大学では「準1級以上」で優遇措置が取られることが一般的ですので、その遥か上に行く1級取得者は、大学入試では想定していないこととなります。

英検1級取得者は、大学入試のレベルを遥に凌ぎ、大学で扱われるアカデミックな英語論文を、ほとんど辞書なしで読み、CNNやBBCの英語メディアを字幕なしで、聞き取ることができます。つまり、それは新しい英語世界に入ることができるようになるのです。

片桐菜々美さんから、お聞きした感想をまとめてみました。

受験前に頑張ったこととして、隙間時間を利用して単語をとにかく覚えたと、語っていました。また、古本屋でライティングの問題を集め、ライティングは全部で 100 個くらい書いたそうです。使い過ぎてボロボロになった教本がその頑張りを表しています。

2 次試験は英語の先生や ALT の Vikki 先生に特訓を受けている姿が印象的でした。加えて、トピックに関しての 3 つのリーズニングがすぐ思いつけるようになるまで、先生から過去 20 年分くらいの過去問を頂き、徹底的に解きまくったとのことでした。

飯島健介君からの感想は以下です。

英検が、共テの一週間後で、あまり勉強する時間がなかったので、ライティングに全て振り切って勉強しました。ライティングは、ライティングのテキストブックを買って、そこに書いてある答えを写せるだけ写して、型を覚えました。リスニングと長文は日々の積み重ねだと思うので、できるだけ日々の生活で洋画見たり洋楽聞いたりするのが効果的だと思います。スピーキングは、一週間前にコロナになってどうかと思いましたが、ALT の Heidi 先生と zoom で練習できてなんとかなりました。もっと時事問題を知っとくべきだったと思う。卒業前にお世話になった先生方に置き土産ができてよかったです。

過去 20 年の国際教養科の卒業時で、準 1 級取得者が最大で 8 名でしたが、2 年次終了時で 8 名の合格者が出たことは、今後の大学入試に向け、さらに英語力を磨いていくと、10 名以上の合格者は確実に出てきます。プレゼンテーションやエッセイライティングの修行を通じ、英語で考え、英語で発信する訓練が、本当の意味で実力向上に直結する最短ルートが証明されたと感じております。

3/4 1 年国際教養科 イギリス語学研修 第 1 回オリエンテーションのレクチャーを受講



本年 7 月に参加予定の英国語学研修の事前学習として、(株) ISA 高崎支店長の登坂 貴氏より、1 時間半、オリエンテーションのレクチャーを受講しました。氏は、海外留学の長い経験を積まれており、現在も、群馬県、新潟県、東京都の高校生を海外語学研修旅行に引率するベテランの先生です。英語の本場のイギリスに行き、英語や様々な研修を受けることの「目的は何か?」「目的達成のための日々の行動目標策定」を自分で考えさせ、それを文字にしていくことの重要性を伝えていただきました。

先生が一番強調したことは、海外の学校の授業や仲間が集う場でも、自分が動かないことには何も変わらない、自分が意見を持たないことには、誰も自分のことを認めてくれないという事実でした。ブリティッシュイングリッシュは最初聞き取ることに苦労するが、自分の努力でそれが聞き取ることが出来ることで、相手とコミュニケーションが取れ、自分の意見を言えることの素晴らしさに繋がると、教えていただきました。海外語学研修において、必要な知識の講義をいただく一方、生徒の方からは、研修についての質問が多く出され、大変有意義なレクチャーとなりました。